

NITS 動画教材「校内研修シリーズ」演習シート

【No. 168：学校の教育目標を具現化するカリキュラム・マネジメント】

- (1) 学校の教育目標を見直す（見つめ直す＝変更しないが意義や解釈を検討する）際には、現状の児童生徒の姿や学校の教育活動の評価（実態把握）から始めると効果的です。校内でワークショップ型研修を実施するに先立ち、どのような評価の枠組みが、勤務校に適しているか、計画してみましょう。

例) 縦軸（成果（よいところ）—課題（足りないところ）），横軸（生活面—学習面）
縦軸（成果（よいところ）—課題（足りないところ）），横軸（児童生徒の姿—教員の指導・カリキュラム）
縦軸（成果（よいところ）—課題（足りないところ）），横軸（個人—チーム/組織）
マトリックス（横に、学校の教育目標の要素，縦に成果，課題，めざす姿など）

- (2) 現存の学校の教育目標について、そこに込められた願いや思いを読み取ってみましょう。また、その言葉から、実現したい、具体的な児童生徒の姿を思い描いてみましょう。その際、「大人になった時」「卒業までに」「〇年生までに」など、発達段階や学年に応じた姿も、実際の学級の児童生徒の個人名を思い浮かべながら、考えてみましょう。そして、学習指導要領なども参考に、その姿になるために必要な資質・能力を言語化しましょう。

- (3) 日常的に、学校の教育目標を浸透させるための方法を考えてみましょう。（例：学校名の頭文字と関連づける，キャッチフレーズをつくる，ループリックをつくる，学校行事の冒頭や最後の挨拶や講話に学校の教育目標と関連づけた内容を盛り込む，名刺や学習帳に目標を印字する等）